



泌乳を続けるスポーツ選手、 時には無理せず休む事も大切です

ちょっと聞いてよ

JA西日本くみあい飼料株式会社中国支店 獣医師 中尾 継幸(なかお つぐゆき)氏

さてここに一つの問題があります。「搾乳牛が病気や怪我を患ったとき、私たちはその牛をどのように扱うべきか?」。人間では病気や怪我をした場合、原則として『安静にすること』が奨励されます。患部や身体に負担をかけないようにして、時には仕事や学校を休み、重症ともなれば入院することもあります。しかし、乳牛ではこの原則通りにならない場合があります。乳牛の生産を仕事とする乳牛では、一通りの治療を施された後は、引き続き同じ環境で同じ飼料を与えられ、ミルクを装着されて搾乳されることも多々あります。しかしそのことで身体に負担がかかり、疾病の回復を遅らせている場合があるかもしれません。



人間のスポーツ選手は脚を酷使することが多く、関節や膝などに集中的に体重がかかり、無理を強いれば歩行困難など日常生活に支障をきたす事にもなりかねません。よって脚を痛めた場合、運動は中止して完治するまで病院で治療を続けます。乳牛も餌を食べて代謝と泌乳を続け、パドックを動き回りパーラーを往復する、という意味では『スポーツ選手』です。成牛ともなると約七百kgもの体重を支える四本の脚や蹄にはかなりの負担がかかります。そのため脚痛や蹄病といった、いわゆる跛行の問題は年々深刻化しています。跛行牛の生産性に関する興味深い報告があります。それは約五百頭の跛行牛を対象とした頻回搾乳の影響についての研究で、跛行牛を一日二回搾乳と三回搾乳の群に区分し、乳量などの変化を調べました。ただしそれらの牛群構成として、二回搾乳牛群は跛行牛だけを集め、対する三回搾乳群は跛行牛と健康牛を混在させた群としたのです。その結果、搾乳回数を増やすと乳量は増える、という周知の傾向に反し、二回搾

乳群の跛行牛と三回搾乳群の跛行牛の乳量に大差はありませんでした。さらに二回搾乳群はボディコンディションスコアの回復が良好で、跛行も早く改善しました。これらの理由として、二回搾乳群は搾乳に要する時間が短く、脚への負担が軽減され、休憩時間と採食時間が増加したことが功を奏したとともに、すべて跛行牛での群構成であつたため、健康で強い牛との競合という社会的相互関係の問題が発生しにくい環境だったことにも因ると推察されています。この調査では、同じ飼養管理方法でも疾病牛は健康牛とは異なる反応を示すこと、そして疾病を患う牛には安静な環境が必要で、それにて生産性が維持され、疾病の回復も早くなる可能性を示しています。今後研究が進み、疾病牛に対する飼養管理理論が展開されるようになって、病気や怪我の際には無理をせず、時には休む事も必要で、その方が結果的に仕事や生産性効率も向上する、という原則は牛も人間も同じなのかもしれません。